

実父からの成人のお祝いのライン

生後 10 ヶ月で両親が離婚、彼女は、母親の実家で育った。3 歳の時、病院で偶然実父に出会ったが、それに気づいた実父は足早にその場を去った。会いたかった実父の顔は、記憶に残らなかった。その後も母親の気持ちを察し、彼女は実父の話は聞けなかった。

中学 2 年の時、仲間からのいじめで学校に行けなくなり、自宅で過ごす中、自分のアイデンティティの不安定さに苦しんだ。不登校のまま、中学校は卒業した。

それでも勉強は続け、17 歳の時、高卒認定試験に合格した。しかし、家庭教師派遣会社の事務員の言動や、派遣された家庭教師の自身作の高額押し売りなどで、彼女は人間不信に陥った。

祖父の取引先の紹介で 18 歳の春、彼女は私と出会った。その月に行われた長野県赤倉温泉でのスノーボー交流合宿に参加し、「私は絶対に君を裏切らない」と言い切った私の言葉に自身の人間不信が払拭した、と彼女は言う。

認知行動療法を織り交ぜたカウンセリングで彼女は徐々に回復し、当グループの予備校で大学受験勉強も開始した。

その年の暮れ、彼女は A 大学の推薦入試を受験し合格、自ら道を開いた。見事だった。

その頃、「お母さんとお父さんが愛し合って結婚。それによって私が生まれた。だから、私はこの世に存在していいんだ。その証がほしい。」と、彼女は母親に訴えた。

母親は、彼女の成人式の 3 ヶ月前に意を決し、自分達の結婚式の時の写真と共に、離婚以来タンスにしまっておいた、「B to C」（共に実父と母親の名前のイニシャル）と刻印された結婚指輪を、彼女にあげた。

彼女は、その指輪を左手中指にはめ、ことあるごとに「自分は両親の愛の結晶である」ことを確認した。

母親は、元夫、彼女の実父の所在地を尋ね、ようやく探し得た。彼女の成人式の 2 ヶ月後、彼女の成人式の写真を、彼女の実父宛の手紙と共に送った。

離婚後彼女の幼稚園・学校の入学・卒業の折りに、何度か元夫に連絡を取ったが、何の返事もなかった。元夫、彼女の実父故に、母親は彼女の手紙の最後に、彼女には黙って彼女の携帯電話番号とラインのアカウントを記し、彼女の実父に望みを託した。

そして、その数日後の 3 月 20 日、実父から彼女にラインが届いた。成人式の写真のお礼と成長した娘への喜びの言葉だった。

「お父さんのラインの言葉に、お母さんの胎内にいる心地よさを感じた。」と、彼女は満面の笑顔で私に語った。